

## 当世ざれ歌「順口溜」の比喩表現

文 楚 雄

### 1、序

#### 1-1 急激な社会変化と「順口溜」

周知の通り、1978年以來、中国の社会は大きな変化が始まった。経済面においては、改革開放政策の実施により中国の経済は、世界を驚かせるような急成長を成し遂げ、成長率は平均して10%超える年は20年も続いていた。国民一人当たりの国内総生産は1980年の674元であったのが2008年の22,640元までに成長し、28年間でなんと約34倍も伸びていたのである<sup>1)</sup>。さらに地域的に見てみれば、もっとも伸びている都市の一つである深圳市では2008年度の一人当たりの国内総生産は13,153米ドルに達している<sup>2)</sup>。このような急速な経済成長は大いに評価すべきことであろう。

しかし、他方、この急速な経済成長の反面に中国の社会には大きな歪みが生じ、数多くの新たな社会問題を抱えるようになってしまったのも否定できない事実である。収入格差の拡大、拝金主義の蔓延、官僚役人の腐敗、モラルの低下などがその社会問題の典型的な例である。官僚役人の腐敗だけを見ても、その数や量が言語に絶するほどのものばかりである。筆者の調べたところ、この十数年で贈収賄などの腐敗汚職の犯罪で、逮捕されたり罷免されたりした副大臣・副省級クラス以上の高官が100人近くもいるのである。2007年10月に開かれた第17期党大会で報告された中国共産党中央紀律検査委員会の報告書によると、2002年12月から2007年6月までの間だけでも、全国の紀律検査機関が立件した役人の汚職・腐敗などの案件はなんと67万8000件にも上った。以前からの未解決案件を含めれば、68万件が処罰されたのである。党紀により処分された人は51万8000人にも上るといふ<sup>3)</sup>。また2006年、2007年のメディアなどで取り上げられた腐敗の大物だけでも次のようなものがある。陳良宇・上海市党委員会書記、杜世成・青島市党委員会書記、鄭篠萸・国家食品薬品监督管理局長、邱曉華・国家統計局長、王守業・海軍副司令官、劉志華・北京市副市長、李宝金・天津市検察院検察長、王昭耀・安徽省党委員会副書記、何閩旭・安徽省副省長、王武龍・江蘇省人代常務会副主任などの高官たちが罷免され、立件されている。うち鄭篠萸には死刑判決が言い渡されているのである。また、2009年前期にメディアなどで公開している腐敗の大物だけでも十数件がある。寧夏回族自治区人民政府副主席李堂堂、遼寧省人大常務会副主任宋勇、広東省党委員会副書記長陳紹基、深圳市市長許宗衡、重慶市公安局長文強などが罷免、立件されている<sup>4)</sup>。しかし、これは決して官僚汚職のすべてではない。汚職・腐敗の氷山の一角に過ぎないと見たほうがいいであろう。摘発されたものはたまたま運が悪くばれているだけなのである。このように中国社会の腐敗・汚職の事件は高官から行政の末端まで底なしの状態となっていることが分かる。

このような新たな社会の歪み現象に対して庶民達は強い不満や憤りを抱いている。この不満や怒りを何らかの形で表明したいのである。そこで登場してきたのが当世ざれ歌の「順口溜」である。政治などに対する批判は依然として厳しい統制が敷かれている中国では、あえて身の危険を冒すまで

ストレートな強烈な批判を展開する人がやはり少ないのである。多くの人々は危険性の伴わない表現手法を選んでいる。その好都合の表現形式は当世ざれ歌の「順口溜」である。「順口溜」は口から口へと伝播され、強烈な政府への批判・皮肉をしながらも、創作者が誰だか、はっきり分からないのである。一方、批判される側は、この「順口溜」を排除しようと思っても、排除することが不可能である。したがって、1980年以降に「順口溜」は激変した社会と比例しているように前例のない速いスピードで大量に創作され、大流行し始めていたのである。人々は日頃の不満や怒りを「順口溜」を通じて発散しているのである。いわば「順口溜」は政府や社会に対する庶民たちの不満や怒りを代弁しているのである。「順口溜」はこのような性格を持っている。この性格は「順口溜」の大流行を促進させているのである。

他方、「順口溜」の空前の大流行は、急激な社会変化のほかに、もう一つ重要な要因がある。これは「順口溜」自身がユーモア的な性格を具えていることである。「順口溜」は多くの滑稽的な表現を使い、社会の歪み現象を批判しながら、独特のユーモア的な雰囲気醸成させ、聞く側にも伝える側にも面白く感じさせ、ストレスの解消にもなれるのである。この滑稽な性格があつてこそ「順口溜」は人々に喜ばれているのである。

## 1-2 当世ざれ歌「順口溜」の比喩表現

「順口溜」の滑稽な表現の一つは比喩表現である。比喩表現は決して「順口溜」の特有の表現ではない。どんな文章形態にでも使える表現手法である。しかし、「順口溜」においてはこの比喩表現の使用がきわめて多く、大変目立っている。この比喩表現が多く使用されてこそ、「順口溜」が人々に喜ばれていると言っても過言ではないであろう。

比喩表現についての研究は決して新しい課題ではなく、古い課題である。数多くの著書と論文がある。代表的な著書には陳望道の《修辞学発凡》・上海教育出版社1976年、袁暉の《比喩》・安徽人民出版社1982年、李济中の《比喩論析》・河北大学出版社1995年、王希杰の《漢語修辞学》・商務印書館2004年、呉礼権の《現代漢語修辞学》・復旦大学出版社2006年、盛若菁の《比喩語義》・西南交通大学2006年、宗廷虎の《20世紀中国修辞学》・中国人民大学出版社2008年などがある。論文も数え切れないほどたくさんある。しかし、他方、これらの研究書はあくまでも一般的な比喩や修辞学についての研究であつて、「順口溜」に絞った研究ではない。筆者の調べた限り、「順口溜」にしばってその表現手法を研究する研究書はまだないのではないかと考えられる。少なくとも中国国家図書館で「比喩」で検索した限り、まだ見当たらないのである<sup>5)</sup>。論文もきわめて少ないのである。この意味においては「順口溜」の比喩表現の研究は意味があろう。

小論は当世ざれ歌「順口溜」の比喩表現について、豊富な用例を通じて、比喩表現句の構文構造、比喩の意味、比喩の言葉と文化などの角度から考察し、「順口溜」比喩表現句の構造、意味、言葉の使い方などの特徴や規則性を明らかにしていきたい。

なお、小論でいう「順口溜」は人によっては「歌謡」、「流行歌謡」、「民謡」、「新民謡」などと呼ぶ場合もある。

## 2、当世ざれ歌「順口溜」比喩句の構文構造

比喩句の代表的な基本構造は「被比喩体+比喩詞+比喩体」の三項目から構成される。しかし、多くの比喩句では必ずしもこの三項目を揃える必要がなく、前後の文脈や表現の必要に応じて比喩詞を省いたり、被比喩体を省略したりすることが可能である。すなわち「被比喩体+比喩体」或いは「比喩詞+比喩体」或いは「比喩体」のみで構成する場合が少なくないのである。

### 2-1 比喩詞

普通の比喩句では下記のような多種多様な比喩詞が使われている。

「像」類の比喩詞には「像、好像、活像、就像、像……一样」、「如、有如、正如、犹如、譬如、比如、宛如、如同」、「似、好似、恰」、「若、犹如、宛如」、「好比、跟、有」、「仿佛、宛然、俨然……一样」などがある。「是」類の比喩詞には「是、成、当、作、为、化」、「成了、成为、变成」、「当成、当作、变作、变为」、「化为、化做、华成」、「等于、属、不亚于」、「疑、疑是」などがある。

しかし、当世ざれ歌「順口溜」の比喩句では上記のような多種多様な比喩詞が多く使われているのではなく、下記の用例に示しているように小数の比喩詞に集中していることが分かる。また、比喩詞省略の比喩句も少なくないのである。

#### (1) 比喩詞有りの比喩句

##### A、比喩詞「像」、「好像」、「活像」、「像……一样」、「似」などがよく使われている

1. 办公桌前黑脸<sup>像</sup>包公，酒席桌上红脸<sup>像</sup>关公，  
回家路上摇摇晃晃<sup>像</sup>济公。

(役所のオフィスでは「包公」のように黒顔をしているが、宴席では「関公」のような真っ赤な顔となり、帰り道では「済公」が雲の上を歩くようによろよろとなるのだ。)

例1の囲いで示しているように各句では比喩詞「像」を使っている。役人たちの飲み食いの醜態を風刺・批判している。

2. 公检法，是流氓，交通警察<sup>像</sup>蚂蝗。  
教育部，是明抢，人民群众<sup>像</sup>羔羊。

(公安、検察、裁判官はごろつきのようなものだ。交通警察はヒルのようなものだ。文部省は正々堂々と貪り、大衆は羊のようにおとなしく貪られるしかないのだ。)

例2も比喩詞「像」を使っている。交通警察の違法行為を批判したり、文部省の高額の学費設定などを批判したりしている。

3. 新鞋穿到半路，张嘴<sup>好像</sup>老虎。  
买了一套西服，一碰扣子全无。

(新しい靴を買ったが、すこし歩いただけで、トラの口のような大きな穴ができてしまったのだ。背広を買ったが、触っただけでボタンがぞろぞろと落ちてしまったのだ。)

例3では比喩詞「好像」を使っている。品質の悪い製品を風刺批判している。

## 4. 住娘家好比山红雀飞，回婆家活象鬼拉住腿。

(実家へ帰るときには小鳥のように飛んでいく。夫の実家に帰るときには足が鬼に引っ張られているようになかなか前へ進まないのだ)

例4は比喩詞「好像」を使っている。女性たちはなかなか夫の実家に帰りたくない実態を風刺している。

5. 吹牛皮像驴叫一样，奉承领导像巴儿狗一样，  
训斥下级像老虎一样，公款吃喝像恶狼一样，  
见便宜跑得像兔子一样，干工作像猴子一样。

(ホラを吹く時にはロバの鳴き声のように叫び、上級機関への奉仕の時にはチンのようにおとなしくなり、下級への叱責の時には虎のような剣幕となり、公款での飲み食いの時には狼のように貪り、目先の利益を取るときにはウサギのように素早く走り、仕事をやる時には猿のように逃げまわる。)

例5では比喩詞「像……一样」のセットを使っている。役人たちの醜態を風刺している。

## 6. 学费似座山，未读腰已弯。

手拿通知书，大眼瞪小眼。

(学費は山のように肩にのしかかり、未入学のうちにその重圧で腰が曲げられ、合格通知書を持ったまま、呆然となるのだ。)

例6では比喩詞「似」を使っている。高い学費に困っている庶民たちの苦しみを訴えている。

## B、比喩詞「好比」、「犹如」、「如同」、「仿佛」などがよく使われている。

## 7. 十七八岁的姑娘好比橄榄球，男人一抱住就不想放了!!!

二十多岁的女人好比足球，男人围着不停地追和抢。

三十多岁的女人好比篮球，只有几个在抢。

四十多岁的女人好比保龄球，一打出去就不回来!

五十岁的女人好比乒乓球，被一个又一个地煽耳光。

六十岁的女人好比高尔夫球，一棍子打出去就不想它再回来。

(17、8歳の娘はラグビーのようなもので、男たちがそれを抱くとなかなか手放さないのだ。20歳代の女性はサッカーのようなもので、男たちがそれを囲んで争っているのだ。30歳代の女性はバスケットボールのようなもので、争っている男たちは数人しかいないのだ。40歳代の女性はボーリングのようなもので、投げ出したら、戻ってこないのだ。50歳代の女性は卓球のようなもので、繰り返して叩かれているのだ。60歳代の女性はゴルフのようなもので、遠く飛ばされて帰ってほしくないのだ。)

例7では比喩詞「好比」を使っている。年が重なっていく女性をユーモアの比喩で表現している。

## 8. 工资好比眉毛短，物价犹如头发长。

(給料は眉の毛のようになかなか伸びないのだ。物価は髪の毛のようにぐんぐんと伸びていくのだ。)

例8では比喩詞「犹如」を使っている。給与があまり上がらず、物価だけがどんどん上がって

く不満を訴えている。

9. 牽着老婆的手，如同左手牽右手，什么感觉也没有。

握着情人的手，彷彿回到十八九。

(妻の手を握るときには自分の左手が右手を握るようになんの感動もないのだ。愛人の手を握るときには、年が18、19歳に戻ったような感動が湧いてくるのだ。)

例9では比喩詞「如同」、「彷彿」を使っている。男たちの不正な女性関係を批判している。

C、比喩詞「是」が他の比喩詞よりかなり頻繁に使われている。「是」で表現している比喩句は筆者が集めている用例の限りでは3割以上も上っている。

10. 二十岁的男人是期货，三十岁的男人是搶手货，

四十岁的男人是現货，五十岁的男人是跳楼货。

(20歳代の男は先物のようなものだ。30歳代の男は人気なものなのだ。40歳代の男はすぐに手に入る現物のようなものだ。50歳代の男は誰も要らないものだ。)

例10では囲いで示しているように、各句に比喩詞「是」を使っている。年が重なっていく男性を滑稽的な比喩で表現している。

11. 台上坐的是主犯，后面两排是骨干，底下听的是傻蛋。

(壇上に座っているのは腐敗の主犯格だ。壇上の後ろの二列に座っているのは中核のメンバーだ。会場で聞いているのは馬鹿にされている阿呆達だ。)

例11では三句とも「是」を使っているが、囲いで示しているように第1句と第3句は比喩句となっている。大衆を馬鹿にしている役人たちの表裏不一の態度を皮肉っている。

12. 工作就是喝醉，联系就是行贿，公关就是陪睡。

(仕事と言えば即ち飲むことだ。連絡と言えば即ち賄賂を贈ることだ。渉外と言えば即ち夜を共にすることだ。)

例12も各句に比喩詞「是」を使っている。不正な取引を行うために雇っている「公関」と呼ばれている人々の仕事ぶりを皮肉っている。

13. 酒量是胆量，酒瓶是水平，

酒风是作风，酒德是品德。

(酒量の大きさは即ち度胸の大きさ、瓶の高さは即ち仕事レベルの高さ、酒風は即ち仕事の作風、酒の徳は即ち人間の徳なのだ。)

例13も各句に比喩詞「是」を使っている。役人たちの飲み食いに対する無頓着さを皮肉っている。

D、比喩詞「算」が使われている。

14. 年过四十算青年，短训三月算大专，

工龄熬满[算]教授，照书抄录[算]考卷。  
 领导拒贿[算]新闻，退出占房[算]清廉，  
 扫次大街[算]雷锋，按时上班[算]模范。  
 质量低劣[算]名优，一般商品[算]特产，  
 换个包装[算]高档，不骂顾客[算]笑脸，  
 唱个歌儿[算]歌星，拉笔赞助[算]导演，  
 乱凑词语[算]诗人，挂个虚名[算]主编。  
 两篇短文[算]作家，别人配音[算]演员，  
 戴顶帽子[算]著名，出本庸书[算]经典。

(年40過ぎてても青年として取り扱われ、三ヶ月の研修だけで短大卒としてみなされる。年齢に達していれば教授と見なされ、教材通りに写せばテストの答案と見なされる。賄賂を拒否すればニュースとして取り扱われ、無断占有した家を返還すれば清廉として見なされる。大通りを一回清掃すればボランティア模範の雷鋒として見なされ、時間通りに出勤すれば模範の従業員として見なされる。品質の悪いものを合格の製品として扱い、普通の商品であっても特産品として見なされる。包装を変えれば高級品として扱い、顧客に汚いことばを掛けなければ笑顔として見なされる。歌を歌えば歌手として見なされ、協賛金を取ってくれば監督として処遇される。言葉を書き集めれば詩人として見なされ、名前を載せたことがあれば主編と誇張される。2編程度の文章を書けば小説家と取り扱われ、他人の音声を使っても出演すれば俳優と見なされる。何かの肩書きがあれば著名な学者と取り扱われ、無意味の本を出版したら経典として見なされる。)

例14では各句に比喩詞「算」を使っている。不正な行為が蔓延している歪みの社会現象を皮肉っている。

E、否定形の比喩詞「不如」が使われている。

15. 挣票子的[不如]有门子的，有门子的[不如]有位子的。

(雇われるものは店舗所有のものに及ばない。店舗所有のものは権力所有のものに及ばないのだ。)

例15では囲いで示しているように否定形の比喩詞「不如」を使っている。腐敗をする権力者たちを批判している。

16. 拿手术刀[不如]拿剃头刀，搞原子弹[不如]卖盐茶蛋，  
 作曲[不如]唱歌，写书[不如]卖书。

(メスを取る者はかみそりを取る者にも及ばない。原爆を研究する者は塩卵を売る者にも及ばない。作曲する人は歌う人に及ばない。本を書くものは本を売るものに及ばないのだ。)

例16も否定形の比喩詞「不如」を使っている。改革開放政策実施初期の80年代の歪みの社会現象を風刺・批判している。

17. 巴金[不如]包金，冰心[不如]点心。

愚公不移山了，雷锋不送站了，  
 張思德不烧炭了，白求恩不在医院了，  
 他们都去贸易货栈了。

(巴金は「包金<偽金のもの>」にも及ばず、氷心は「点心<ケーキ>」にも及ばない。愚公は山を移さなくなり、雷鋒は駅の見送りをしなくなり、張思徳は炭焼きをしなくなり、ノーマンベチューンは病院から姿を消してしまい、皆は取引の市に行ってしまったのである。)

例 17 の第 1 句、第 2 句では比喩詞「不如」を使っている。改革開放政策実施初期の 80 年代の歪みの社会現象を風刺・批判している。

## (2) 比喩詞無し of 比喩句

比喩句では必ずしも比喩詞を揃える必要がなく、表現の必要や前後の文脈などで省略しても十分に分かる場合には省略したりしている。また、借喩や引喩の表現では比喩詞を使わない。

18. 公检法是流氓，工商税务（ ）两条狼，乡政府（ ）土霸王。

(公安員、検察員、裁判員はごろつきのようなものだ。工商管理員、税務員は狼のようなものだ。郷政府は地元の覇者なのだ。)

例 18 の第 2 句、第 3 句の括弧で示しているように、比喩詞「像」や「是」を省略している。前後の文脈などでまったく誤解が生じていないのである。公務員たちの悪政行為を批判している。

19. 党政干部（ ）铁饭碗，企业干部口袋满，  
科技干部填饱肚，教育干部喝凉水。

(党・政府の職員は親方五星紅旗であり、企業の管理職員は食べ物がいっぱいあるのだ。技術の職員は何とかがして食べていけるが、教育関係の職員は食べ物がないのだ。)

例 19 の第 1 句の括弧で示しているように、比喩詞「是」を省略している。例 19 は 80 年代初期の歪みの社会現象を批判している当世ざれ歌である。

20. 全鸡全鸭（ ）土八路，大鱼大肉（ ）乡巴佬，  
鱿鱼海参已吃腻，对虾大餐还可以。

(鶏やアヒルの肉を食べるものは野夫なのだ。魚や肉を食べるものは田舎者なのだ。イカやナマコはもう飽きている。タイショウエビならばままいけるのだ。)

例 20 の第 1 句、第 2 句では比喩詞「是」を省略している。山の幸、海の幸に飽きている官僚たちを批判している。

21. 不正之风有我也有你，（ ）拔出萝卜带出泥（ ），  
你不讲，我不讲，和平共处都有益。

(大根を引き抜くときに泥も付いてくるように、不正は君にも俺にもあるのだ。そっちも言わないで、こっちも言わないのだ。平和共存すれば皆利益が得られるのだ。)

例 21 の第 2 句の括弧の箇所に、比喩詞「像……一樣」を省略している。役人同士たちが不正をかばい合う現象を批判している。

22. 香烟（ ）介绍信，酒杯当大印。  
要想事办成，筷子作决定。

(タバコは紹介状の役割を果たし、杯は公印の役割を果たすのだ。取引を成功させるためには、お箸の役割は重要なのだ。)

例 22 の第 1 句では比喩詞「当」を省略している。タバコの贈答、飲み食いの招待が氾濫している現象を批判している。

23. 四只金钱豹，十三顶大盖帽，

都来吃一顶破草帽。

(財務、工商、税務、銀行の 4 匹の豹と、つばの広い帽子をかぶっている 13 類の奴は、みんな農民からお金を貪るのだ。)

例 23 の囲いで示しているところはいわゆる借喩の表現となる。比喩詞が要らないのである。裕福でない農民たちをいじめる歪みの現象を批判している。

24. 贪官逍遥又自在，内有十层

护心甲，外有围墙圈套圈。

(汚職の役人は自由自在だ。内には幾層もある保護網があり、外には何重の守備層がある。)

例 24 もいわゆる借喩の表現となる。比喩詞が要らないのである。囲いで示している比喩体「护心甲」、「围墙」は互に庇いあう人達を指している。批判しているのである。

## 2 - 2 被比喩体と比喩体

当世ざれ歌「順口溜」の比喩句の被比喩体は人間関係の名詞や代名詞から構成される場合が多いが、動作・行為或いは状態を表す用言性語句が務める場合も少なくない。また、被比喩体は前後の文脈及び表現の必要に応じて省略することもできる。他方、比喩体は比喩句の中心なので、省略することができない。また、その構成や内容も千変万化となる。

### (1) 「主語・述語・目的語」の構文

被比喩体は「主語」、比喩詞は「述語」、比喩体は「目的語」で構成する比喩句はもっとも代表的なものとなる。下記の用例を見てみよう。

25. 袖子 象 个鸡毛掸子，褂子 象 炸了尸的鸭子；

头上另着二斤夹子，怎么看怎么象个傻子。

(袖は鶏の毛のはたきのようなものに作られ、裾は揚げ裂けたアヒルのようなものとなっている。頭には二斤もあるクリップをつけられ、どう見ても阿呆のように見える。)

例 25 は下線などで示しているように、第 1 句では被比喩体「袖子」は主語、比喩詞「象」は述語、比喩体「鸡毛掸子」は目的語となっている。第 2 句も比喩詞「象」を使っている。その前は主語、後ろは目的語となっている。若者たちの常識はずれのファッションを理解できない気持ちを表している。

26. 住院要去托关系，进去之后大刀宰。

一年四季空调费，一天三晌人不来。



想向护士问仔细，天使一怒 变 鬼怪。

(入院もコネクションが必要で、入っても余計な費用が取られてしまう。一年中空調費が加算されるばかりでなく、どう呼んでもナースが来ないのだ。その仔細を聞いてみようとするれば、白衣の天使は急変して鬼になるのだ。)

例 26 の第 3 句では看護婦たちを鬼に譬えている。被比喩体の「天使」は主語で、比喩詞「変」は述語で、比喩体「鬼怪」は目的語となっている。病院などの医療施設のサービスの悪さを批判している。

27. 爱党 胜过 妈，爱国 胜过 家。

党 就是 咱妈，国 就是 咱家。

没钱跟妈要，没吃从家拿。

(愛党はお母さんを愛するよりも勝り、愛国は家を愛するよりも勝っているのだ。党は即ちお母さんなのだ。国は即ち自分の家なのだ。銭がなければお母さんからもらい、食べ物があれば国からもらうのだ。)

例 27 も下線などで示しているように、第 1～4 句の「胜过」、「就是」が述語で、その前後に主語と目的語がある。公私混同の歪み現象を批判している。

28. 有钱就结婚，管它爱不爱。

法院挤破门，离婚 象 比赛。

(お金がある人なら、直ちにその人と結婚するのだ。愛があるかどうかは気にしないのだ。裁判所では人々の群れで混雑となり、離婚は優勝を争う競技のような状況になるのだ。)

例 28 の第 4 句では被比喩体の主語は用言性語句で構成されている。金銭目掛けの安易な結婚現象を批判している。

29. 现代少女真糟糕，喝酒猜拳不用教。

喜欢跳舞玩通宵，反正坐台来报销。

穿双鞋子七寸高，逢人便把媚眼抛。

撒娇 好比 小羊羔，动起怒来拿菜刀。

(今の少女たちは本当に困る。じゃんけんの酒飲みは教えなくてもすぐできる。ダンスは夜通しでやり、その費用は水商売で稼ぐ。ハイヒールは七寸もあり、男を見れば誰にでも媚びた眼つきを投げかける。甘えるときには子羊のようにおとなしく、喧嘩するときにはすぐに包丁を振り回す。)

例 29 の第 7 句の被比喩体の主語は用言性語句の「撒娇」で、述語の比喩詞は「好比」を使っている。不良少女たちの不良行為を批判している。

30. 鼠标 好比 爱神箭，网上一片胡乱窜，

行行文字 似 弯弓，盼望佳人快来电。

(マウスは愛の矢のようにネットであちこちに動く。書いた文章は弓のように射当たり、愛している人の返信を待ち望んでいる。)

例 30 の第 1 句、第 3 句の被比喩体、比喩体は普通の名詞で構成され、述語の比喩詞は「好比」と「似」を使っている。ネットカフェ中毒の青少年の状況を批判している。

## (2) 「是」で構成する「主・述・目」の構文

比喩詞「是」で構成する「主・述・目」の比喩句は非常に多い。当世ざれ歌構文の特徴の一つと言えるであろう。下記の用例を見てみよう。

31. 你 是 风来我 是 沙，飘飘洒洒走天涯。  
你 是 锹来我 是 把，辛辛苦苦把土挖。  
你 是 土来我 是 苗，缠缠绵绵直到老。

(あなたは風で、私は砂だ。飄々として飛び回るのだ。あなたは锹で、私はその取ってだ。苦勞して土を掘るのだ。あなたは土で、私は苗だ。纏綿として老いるまで一緒になるのだ。)

例 31 の第 1 句、第 3 句、第 5 句は「是」で構成している「主・述・目」の比喩句である。被比喩体は代名詞「你」と「我」となっている。生徒たちの作文という題名を付けていることから、青少年の不健康な精神状況を風刺している。

32. 二十的男人 是 叭儿狗，女人怎么也赶不走。  
三十的男人 是 家狗，守着女人怕出走。  
四十的男人 是 野狗，晃晃悠悠不回头。  
五十的男人 是 疯狗，逮住女人咬一口……

(20代の男はチンのようなものだ。女がいくら追い出しても出て行かないのだ。30代の男は家の犬のようなものだ。女にくっ付いて外へ出ないのだ。40代の男は野犬のようなものだ。うろろうして帰ってこないのだ。50代の男は狂犬のようなものだ。女を捕まえて噛むのだ。)

例 32 の第 1、3、5、7 句は「是」で構成している比喩句である。被比喩体の主語は「男人」である。年齢別の男の特徴を滑稽の比喩で表現している。

33. 晚上下班回家 是 穷鬼。晚上9点回家 是 酒鬼。  
晚上12点回家 是 色鬼。凌晨4点回家 是 赌鬼。

(退社後すぐ家に帰るものは貧乏人なのだ。夜 9 時家に帰るものは酒が好きな奴だ。夜 12 時に家に帰るものはスケベーの人なのだ。早朝 4 時家に帰るものは賭博が好きな奴だ。)

例 33 の 4 句とも「是」で構成している比喩句である。被比喩体の主語は名詞、代名詞ではなく、用言性の語句「回家」となっている。夜の男たちの行動を皮肉っている。

## (3) 被比喩体の省略

被比喩体は比喩句を構成する要素の一つではあるが、比喩詞と同様に、必ずしも揃える必要がなく、前後の文脈や表現の必要などに応じて省略することができる。下記の用例を見てみよう。

34. 打雷闪电 热在上层，星星点点 落在中层，不声不响 冷在基层。  
讲话好比轱辘转，扯不开来掙不断。

(雷や稲妻のような熱意があるのは上層部だけだ。中層部になれば、ばらばらと降る雨のようになるのだ。下層部になれば、何事もなくなってしまうのだ。演説はチェーンのように、切っても切られないように続

くのだ。)

例 34 の囲いで示している第 1 句の「打雷闪电」、第 2 句の「星星点点」は比喩体で、その前にあるべき被比喩体「決心」や「政策」などは省略している。前後の文脈で何を指しているのか読者は分かる。即ち「決心」や「政策」を雷や稲妻のように、ぱらぱらと降る雨のようにと譬えているのである。このように被比喩体を省いて簡潔にしたほうが表現の効果が上がる。比喩詞「像」なども省略している。このざれ歌は会議の会場で実行性のない提案や政策を演説する役人たちを風刺・批判している。

35. 老婆是家，情人是花。工资给家，奖金送花。

病了回家，好了看花。常回家看看，别忘了浇花。

(妻は家なのだ。愛人は花なのだ。給与は家にやるのだ。賞金は愛人にやるのだ。病気のときには家に帰り、治ったときには花のところへ行くのだ。ときどき家に帰るが、花への水やりも忘れてはいけないのだ。)

例 35 の囲いで示している「花」は比喩体で前後の文脈で愛人や女性を指しているのが明らかである。このような「借喩」の比喩の場合では被比喩体や比喩詞が要らない。

36. 身边光棍太多，整天饿得直吵。有人看我可怜，就想帮我去找。

那怕废旧材料，或许我也想要。谁知世事难料，她们也都很挑。

没钱没房没车，休想前来骚扰。心中百思不解，为何世道变了。

为何鲜花朵朵，都与牛粪结果。

(周りには独身が多く、女がいなくて困っているのだ。僕らを可憐に思い、世話をしてくれる人がいる。紹介してくれれば、どんな人であろうと受け入れる覚悟だ。ところが世の中のことは計り知れないものだ。彼女らも高い条件を出しているのだ。銭なし家なし車なしの奴が要らないのだ。納得ができないのだ。世の中は何で変わってしまったのだ。何で花は牛糞の上に挿すのだ。)

例 36 の第 5 句の囲いで示している「废旧材料」は比喩体で、女性を指している。その被比喩体や比喩詞が要らない。前後の文脈で比喩体が何を指しているのかがはっきりしているので、いう必要がないのである。また、表現上の音韻や文字の制約もあるので、無理に被比喩体を入れたら、ざれ歌でなくなる。普通の文章になってしまう。

37. 我曾经历过《泰坦尼克》，可惜那么短暂，而且没那么轰轰烈烈。

后来我希望是《漂亮女人》，可惜我是男的，不忍割那一刀。

(僕は嘗て《タイタニック》を経験したことがある。残念ながら短すぎた。あの強烈さもないのだ。後に《綺麗な女》を望んでいるが、残念ながら僕は男だ。切られるのも嫌だ。)

例 37 では囲いで示している「《泰坦尼克》」、「《漂亮女人》」は映画の題名であるが、それを熱烈な恋愛に譬えている。この例もいわゆる「借喩」の比喩で、被比喩体も比喩詞も要らないのである。

38. 馆子里面吃烧鸡，宾馆里面打野鸡。

(料理屋では焼き鳥を食べる。ホテルでは「野鷄<売春婦>」と遊ぶ。)

例 38 の第 2 句の「野鷄」は売春婦の喩えである。被比喩体、比喩詞が要らない。役人たちの腐敗を批判している。

### 3、当世ざれ歌「順口溜」比喩句の比喩種類

比喩句の比喩種類は伝統的には「明喩」、「暗喩」、「借喩」の三大種類に分けられている。この伝統的な三大分類をさらに子分類化して、「倒喩」、「反喩」、「強喩」、「迂喩」、「曲喩」、「博喩」、「連鎖喩」、「引喩」、「較喩」、「提喩」、「弱喩」、「等喩」、「非喩」、「交喩」、「類喩」、「進喩」、「縮喩」、「環喩」、「兼喩」、「諷喩」、「対喩」、「事喩」、「物喩」、「約喩」、「合喩」、「通喩」、「接喩」、「回喩」、「潜喩」、「拈喩」、「展喩」、「逆喩」、「疑喩」などのように三十種類以上にも分けられている<sup>6)</sup>。これらの子分類は統一の基準や方法、整合性などがなく、好き勝手に名前を付けて分類のための子分類にしているといわざるを得ない。このように意味のない子分類に対して多くの学者が否定的な見方をしている。筆者も否定的な意見を持っているのである。このように整合性のない過度な子分類はかえって混乱が生じるからである。したがって、筆者はこの小論では当世ざれ歌「順口溜」を下記のような五種類に分けることにする。また、収集した実例を分析してもこの五種類の比喩表現に集中していることが分かる。

#### 3-1 明喩

「明喩」は意味においても、構文構造においても比喩であることがはっきりしている表現形式である。「像」「如」「好比」などの比喩詞がよく使われている。下記の用例を見てみよう。

39. 妹妹妹妹我爱你，就象老鼠爱大米，  
一见钟情爱上你，二话没说就追你。

(妹よ、僕は君を愛しているよ。鼠が米を愛しているように。一目ぼれで君を愛しているよ。君を追いかけよう。)

例 39 の囲いで示している第 2 句は「就象」を使った「明喩」の比喩句である。愛を鼠と米の関係に譬えて、滑稽な雰囲気を作り出している。

40. 远看像猪场，近看是民房，  
听到读书声，才知是学堂。

(遠くから見れば豚小屋のように見える。近くから見れば民家のように見える。読書の声が聞こえてはじめて学校だと気づくのだ。)

例 40 の囲いで示している第 1 句は「明喩」の比喩句である。比喩詞「像」を使って学校を豚小屋に譬えている。校舎らしい校舎のない山村小学校の悲惨さを皮肉っている。

41. 穷的象教授，傻的象博士，丑的象女研究生。

(貧しくて教授のように貧しいのだ。阿呆で、博士のように阿呆なのだ。醜くて女性院生のように醜いのだ。)

例 41 の各句は「像」を使った「明喩」の比喩句である。80 年代初期の教育状況を諷刺している。今は教員の待遇が改善され、特に大学の教員は相当裕福になっている。

42. 大一，( ) 兔子不吃窩邊草 ( )。  
 大二，( ) 好馬不吃回頭草 ( )。  
 大三大四，天涯何處無芳草？

(大学1回生は、巢の周りの草を食べない兎のように身近の人に手を出さない。大学2回生は、振り返って草を食べない良い馬のように未練を残さないのだ。大学3回生、4回生が恋愛しないのは、天涯のいたるところに素晴らしい人がいるからだ。)

例42の括弧で示しているように、第1句、第2句では比喩詞「像……一様」を省略した「明喩」の比喩句である。このざれ歌は恋愛をしない大学生を表現しているが、1980年代の学校の状況であろう。今の大学生は大きく変わっている。

### 3-2 暗喩

「暗喩」は動詞「是」、「当」、「成」などを比喩詞として使い、「甲は乙である」といったような表現で直接の比喩を行う。「順口溜」の暗喩では「是」を使った用例は圧倒的に多い。単純明快な表現で社会の歪み現象を諷刺・批判するのに最適な表現手法の一つであろう。下記の用例を見てみよう。

43. 领导就是服务，服务就得有偿，  
 有偿就是收费，收费就是领导。

(指導者は即ちサービスを行うものだ。サービスは即ち有償だ。有償は即ち費用を徴収することだ。費用徴収者は即ち指導者なのだ。)

例43の第1句、第4句は暗喩の比喩句である。囲いで示しているように「就是」を使って指導者を費用徴収者に譬えている暗喩の表現である。わけの分からない費用徴収を行う役所のやり方を批判している。

44. 中央干部是恩人，省里干部是好人。  
 县里干部是罪人，村里干部是仇人。

(中央の幹部は恩人なのだ。省の幹部はいい人なのだ。県の幹部は罪人なのだ。村の幹部は仇敵なのだ。)

例44の4句とも「是」を使った暗喩の比喩句である。下級行政の責任者の苦しい立場を描写している。

45. 一等公民是清华，朝中有人好提拔。  
 二等公民是北大，自由民主常自夸。  
 三等公民是南大，炮制论文到处挂。  
 四等公民是浙大，拼凑勇气真可嘉。  
 五等公民是复旦，宝贝得志笑穷酸。  
 六等公民中科大，中国红苗欧美花。  
 七等公民是交大，硬拉主席抬声价。  
 八等公民西交大，正室反被侧室压。  
 九等公民哈工大，瘦死骆驼比马大。  
 十等公民是华工，嘴尖皮厚腹中空。

气急败坏[是人大]，为了排名告网大。

饥不择食[是东南]，大学降级并中专。

(一等公民は清華大だ。中央には人脈があり、抜擢されるのだ。二等公民は北京大だ。自由民主は自慢の話だ。三等公民は南開大だ。論文を氾濫させて至るところに発表するのだ。四等公民は浙江大だ。寄せ集める勇氣はたいしたものだ。五等公民は復旦大だ。変わり者は志を遂げて貧乏人を笑うのだ。六等公民は中国科学技術大だ。国内の優秀な出身者の外に欧米留学経験者も揃えられているのだ。七等公民は上海交通大だ。強引に主席の名を取り寄せてランクを押し上げるのだ。八等公民は西安交通大だ。正室は側室に圧迫されているのだ。九等公民はハルピン工業大だ。「駱駝が痩せても馬より大きい」の諺のように力があるのだ。十等公民は華中工大だ。厚皮の竹の子のように中身は何もないのだ。剣幕の態度を取るのは人民大だ。ランキングのために通信教育大を訴えるのだ。飢えるものが食を選ばぬ者は東南大だ。専門学校を併合して知名度を高めるのだ。)

例 45 の囲いで示している句は暗喩の比喩句である。「是」を使った暗喩であるが、「是」を省略している句もある。有名大学の悪名を皮肉っている。

### 3-3 借喩

「借喩」は被比喩体と比喩詞が出てこない比喩の表現である。比喩体は即ち被比喩体である。両者は同一なものとなる。下記の用例を見てみよう。

46. 领导不在家时要当好[看家狗]。

领导外出打猎时要当好[赶山狗]。

领导落难时要甘当[落水狗]。

(上司不在のときには番犬のような役割を果たし、上司が猟をするときには猟犬のような役割を果たす。上司が非難される時にはスケープゴートのような役割を果たすのである。)

例 46 の囲いで示している語句は借喩の比喩体である。被比喩体の「部下」や「秘書」は文面には出ていない。比喩体の「看家狗」「赶山狗」「落水狗」がその代わりとなっている。即ち「看家狗」のような部下、「赶山狗」のような部下、「落水狗」のような部下という意味になる。上司の部下や秘書を狗に譬えている表現である。

47. 背靠[大山]搬不倒，头顶铁杆[保护伞]。

揭贪难于上青天，惩贪难过鬼门关。

(強いバックがあり、硬い保護網を持つ。腐敗を摘発するのは天に昇るように難しいのだ。汚職を摘発するものなかなかうまく行かないのだ。)

例 47 の第 1 句、第 2 句の囲いで示している語句は借喩の比喩である。被比喩体の強いバックを「大山」に、硬い保護網を「保护伞」に譬えている。被比喩体や比喩詞が要らない。

48. 有的官们在位子，手握[指挥大棒子]，

[大小爪牙]一帮子，横行霸道螃蟹子。

(在職している権力者は自由に権力を駆使し、多くの手下を集めて、横柄な態度で振舞う。)

例 48 の囲いで示している「指挥大棒子」、「大小爪牙」は借喩の比喩である。「指挥大棒子」を権力に譬え、「大小爪牙」を部下や手先に譬えている。権力者の横柄な態度を批判している。

49. 一等男人家外有[花]，二等男人家外找[花]，  
三等男人四处乱抓，四等男人下班回家。

(一等の男は妻以外にも女がいるのだ。二等の男は妻以外の女を捜すのだ。三等の男はあちこちむやみにあたるのだ。四等の男は退勤すれば、そのままに家に帰るのだ。)

例 49 第 1 句、第 2 句の囲いで示している「花」は借喩の比喩表現である。女性を指しているのである。

### 3 - 4 比較喩

「比較喩」は被比喩体と比喩体の両者を比較させ、被比喩体が、比喩体より程度がひどいことを表現する。比喩詞が必要である。下記のような用例を見てみよう。

50. [摆个小摊]，顶个[县官]。  
[办个小厂]，赛过[省长]。

(小店を開けば、県の長官にも勝るのだ。小さい工場を作れば、省長にも勝るのだ。)

例 50 の囲いで示している被比喩体の「摆个小摊」、「办个小厂」は後ろの比喩体「县官」、「省长」より程度がひどい意味を表している。改革開放政策実施初期の社会状況を皮肉っている。

51. [贪官]贪，钱加权，逍遥自在[赛神仙]。

(賄賂を貪る悪役人たちは銭と権力の両方を持ち、神仙よりも自由自在にしているのだ。)

例 51 の囲いで示しているものは比較喩となる。被比喩体の「贪官」は比喩体の「神仙」よりも自由自在となっている。賄賂をもらう悪役人たちを批判している。

### 3 - 5 引喩

「引喩」は句内での比喩ではなく、前句と後句の間の比喩となる。前句と後句は並列関係になるが、前句は後句を引き出す発端となる。次のよう例を見てみよう。

52. 生命在於運動，提昇在於活動。

(生命は運動にあり、昇進は活動にあるのだ。)

例 52 では前句の「生命在於運動」は、後句の「提昇在於活動」の発端となっている。前句の「生命は運動にあり」のように、後句の「積極的な活動をしなければ、昇進がありえないのだ」の意味を引き出しているのである。このざれ歌は不健全な人事制度の歪み現象を批判している。

53. 东风吹战鼓播，如今喝酒谁怕谁？

你一杯我一杯，九个就有十个醉。

(東風が吹き、陣太鼓が響き、酒の飲み比べは始まるのだ。君、一杯、俺、一杯、十人の内、九人が酔っ払いになるのだ。)

例 53 の第 1 句は後句を引き出すための発端となっている。酒飲み比べを古代の戦いの始まる場面に譬えている。

#### 4、当世ざれ歌「順口溜」比喩句の言葉と文化

比喩はまったく違う二つの物事をその近似性で結ばせる。近似性を見つければ、甲を乙に譬えることが可能である。したがって、比喩句に使われることばは意外性、面白み、感動を感じる場合が多いのである。当世ざれ歌「順口溜」の場合はなおさらのことである。「順口溜」は意外性や面白みのあることばの表現により、人々に楽しく感じさせながら、社会の歪みの現象を風刺・批判している。「順口溜」に使われていることばや表現は地域や民族の文化・特色を反映している。当世ざれ歌「順口溜」比喩句のことばには下記のような文化的な傾向が見られる。

##### 4-1 動物に喩える

当世ざれ歌「順口溜」では人間を動物に譬える比喩が多く使われている。「順口溜」は社会のマイナス面を諷刺・批判するのがその役目であるので、歪みの社会現象に関わる人間を動物に譬えて強い不満や批判の気持ちを表すのが容易に理解できる。ただ、同じ動物であっても、民族や地域により、マイナスのイメージであったり、プラスのイメージとなったりする場合がある。そこに文化の要素が大きく関わっている。下記の用例を見てみよう。

##### 54. 赶走[东北虎]，还我好丈夫。

(東北トラを追い出して、われらの夫を帰してくれ。)

例 54 の囲いで示している「东北虎」は東北の女性の譬えとなる。東北トラは体が大きいのが特徴的である。中国の東北の女性は南方の女性より背が高いのが一般的な傾向である。したがって、女性を東北トラに譬える場合には、北方系女性を指すのである。ここにはやはり地域の生活や文化が反映されているのである。この「順口溜」は他の女性と親しくなった夫を奪還したい妻たちの苦しみを訴えている。

##### 55. [公鸡母鸡]是夫妻，整天忙着孵[小鸡]。

[小鸡]头脑有问题，不吃不喝不休息。

[公鸡母鸡]心焦急，躲在一旁看[小鸡]。

傻冒[小鸡]没注意，正在偷偷看手机。

(雄鶏と雌鳥は夫婦である。子鶏の育てで忙しい毎日となっている。子鶏は何か頭の具合でも悪いのか。食わず飲まず休まずにしている。雄鶏と雌鳥は心配してそばで子鶏を観察していたが、子鶏はそれに気づかずに、こっそりして携帯を見ていたのだ。)

例 55 の囲いで示している「公鸡母鸡」は男と女に、「小鸡」は子供に譬えている。子供も携帯メールをする社会現象を皮肉っている。

##### 56. 你是[鸡]来我是[蛋]，鸡飞蛋打都玩蛋。

(あなたは鶏で、私は卵だ。鶏が逃げ、たまごが破れたようにすべては終わったのだ。)

例 56 も囲いで示しているように相手を「鸡」に、自分を「蛋」に譬えている。このざれ歌は国語



授業での生徒たちの作文の例文と名づけていることから、生徒たちの不健全な精神状態を皮肉っているのである。

57. 你是天上的[凤凰]飞啊飞，我是地上的[乌鸦]追啊追，  
我不打你也不骂你，我用感情折磨你。

(君は空の鳳凰のように飛びまわり、僕は地上の鴉のようにあなたを追いかける。僕は君を殴りもせず罵りもしない。僕は情けで君を苦しめるのだ。)

例 57 では囲いで示しているように相手を「鳳凰」に、自分を「乌鸦」に譬えている。この「順口溜」も不健全な生徒たちの実態を皮肉っているのである

58. 我名小车人喻[牛]，为官服务忙应酬。

(僕は乗用車だが、人から牛と譬えられた。役人のために一生懸命に働くのだ。)

例 58 は擬人化の表現であるが、擬人化された「僕」は牛に譬えられている。私用のための公用車利用の役人たちを批判している。

59. 在领导眼里是[老黄牛]，在妻子眼里是[小绵羊]，  
在儿子眼里是[凶老虎]，在父母眼里是[大灰狼]。

(上司の目には牛のようなものだ。妻の目には羊のようなものだ。息子の目にはトラのようなものだ。両親の目には狼のようなものだ。)

例 59 では囲いで示しているようにお父さんを「牛」、「羊」、「虎」、「狼」に譬えている。苦しい立場にあるお父さんを滑稽の表現で皮肉っている。

60. [色狼]克林顿，[野狼]萨达姆，[饿狼]普京，[家狼]陈水扁。

(色好きな狼はクリントンなのだ。野生の狼はサダム・フセインなのだ。飢えた狼はプーチンなのだ。家の狼は陳水扁なのだ。)

例 60 では囲いで示しているように世界で超有名なクリントン、サダム・フセイン、プーチン、陳水扁の四人を四匹の狼に譬えているのである。

#### 4 - 2 自然現象や植物に譬える

当世ざれ歌「順口溜」では人間を天文などの自然現象や植物に譬える表現がよく使われている。下記の用例を見てみよう。

61. 毛泽东[像太阳]，照到哪里哪里亮。  
邓小平[像月亮]，吃喝嫖赌到天亮。  
江泽民[像星星]，下岗工人数不清。

(毛沢東は太陽のようだ。照らされるところは明るくなるのだ。鄧小平は月のようだ。飲み食い、女郎買い、賭博は夜明けまでやるのだ。江沢民は星のようだ。レイオフの労働者は数え切れないほど出るのだ。)

例 61 では囲いで示しているように、毛沢東を太陽に、鄧小平を月に、江沢民を星に譬えている。それぞれの時代の特徴を諷刺している。

62. 单身是春天的种子，充满希望。单身是夏天的烈日，热情辉煌。

单身是秋天的落叶，自由自在。单身是冬天的飘雪，浪漫无限。

(独身者は春の種のように希望に満ちている。独身者は夏の太陽のように情熱的に輝くのだ。独身者は秋の落ち葉のように自由自在となるのだ。独身者は冬の雪のようにロマンチックで終わりが無いのだ。)

例 62 の囲いで示しているように独身者を植物や自然現象の「種子」、「烈日」、「落叶」、「飘雪」に譬えている。独身者の自由と孤独を訴えている。

63. 中央政策大天晴，下到地区起点云，

转到县里变成雨，落到镇里淹死人。

(中央の政策は晴れた日の日差しのようにとてもいいが、地区級行政へ伝達されていったら、雲と変わり、県レベルの行政に到達したら、雨となり、鎮レベルに来たら、人が溺れるほど大水となるのだ。)

例 63 の囲いで表しているように中央の政策を自然現象の「大天晴」、「起点云」、「变成雨」、「淹死人」に譬えている。中央の政策そのものは正しいが、地方に伝達されていくにつれてその内容が次第に変貌していく。末端になると、まったく国民の利益にならない政策になってしまうのだ。その歪み現象を批判している。

64. 你是水来，我是泥，永远不能离开你。

你是男来，我是女，世世代代在一起。

(あなたは水で、私は泥だ。私は永遠にあなたと離れられないのだ。あなたは男で、私は女だ。永遠に一緒になるのだ。)

例 64 の囲いで表しているように相手を水に、自分を泥に譬えている。

65. 50 年代嫁英雄，60 年代嫁贫农。

70 年代嫁军人，80 年代嫁文凭，90 年代嫁珠穆朗玛峰。

(50 年代では英雄に嫁ぎ、60 年代では貧農に嫁ぎ、70 年代では軍人に嫁ぎ、80 年代では高学歴者に嫁ぐのだ。90 年代ではチョモランマのように背の高い人に嫁ぐのだ。)

例 65 では最後の句の囲いで記しているように背の高い人をチョモランマ峰に譬えている。

66. 世上只有妈妈好，但愿妈妈不要老。

年轻的妈妈是个宝，老了的妈妈是棵草。

(世の中はお母さんが一番すばらしい人なのだ。年取ってほしくないのだ。若いお母さんは宝のようなものだ。老いたお母さんは草のようなものだ。)

例 66 の最後の句の囲いで表しているようにお母さんを草に譬えている。

#### 4-3 別の物品や物事に譬える

当世ざれ歌「順口溜」では被比喩体の人、物品、物事を別の物品や物事に譬える表現がよく使われている。下記の用例を見てみよう。

67. 大一女生[像篮球], 大家抢着投。大二女生[像排球], 来了才去接。  
大三女生[像铅球], 能躲尽量躲。大四女生[像足球], 大家踢着走。

(大学の1回生の女子学生はバスケットボールのようなもので、みんな争って取るのだ。2回生はバレーボールのようなもので、やってきたら取るのだ。3回生は砲丸のようなものでみんなが避けるのだ。4回生はサッカーボールのようなもので、蹴りながら前へ前進させるのだ。)

例 67 の囲いで示しているように、大学の女子学生を物品の「篮球」、「排球」、「铅球」、「足球」に譬えている。

68. 人啊，都不讲实话。说股票[是毒品], 都在玩。

说金钱[是罪恶], 都在捞。说美女[是祸水], 都想要。

(人はみんな本音を言わないのだ。株は薬物のようなものだと言いながらも、みんなやっているのだ。金銭は罪恶のような物だと言いながらも、みんな力を入れて稼いでいるのだ。美女は禍だと言いながらも、みんなほしいのだ。)

例 68 の囲いで示しているように、被比喻体の物品や人を別の物品や物事に譬えている。株を「毒品」に、金銭を「罪恶」に、美女を「祸水」に譬えている。

69. 酒是穿肠[毒药], 色是刮骨[钢射刀]。

财是下山[猛虎], 钱是惹祸的[根苗]。

(酒は腸の毒物だ。色気は骨を削る刀だ。財産は猛々しい虎だ。銭は禍の根源だ。)

例 69 では酒を薬物に、色気を刀に、財産を虎に、銭を禍に譬えている。

#### 4-4 他の職業や業種に喩える

当世ざれ歌「順口溜」ではある職業や業種を他の職業や業種に譬える表現は時々使われている。下記の用例を見てみよう。

70. 一等流氓是[贪官], 危害百姓南霸天。

二等流氓是[高参], 领导面前进谗言。

三等流氓是[公安], 勾结妓女开罚单。

四等流氓是[大款], 坑蒙拐骗样样敢。

五等流氓是[总监], 专收工程黑心钱。

六等流氓是[主编], 剽窃文章成便饭。

七等流氓是[导演], 专门糟蹋女青年。

八等流氓是[演员], 脱光裤子拍大片。

九等流氓是[猛虎]癩三, 吃喝嫖赌五毒全。

(一等のごろつきは腐敗の官僚だ。南霸天のように百姓を欺くのだ。二等のごろつきは高級参謀だ。指導者の前に讒言を言うのだ。三等のごろつきは公安の人だ。売春婦と組んで罰金を取るのだ。四等のごろつきは成金だ。騙し、詐欺、何でもやるのだ。五等のごろつきは総監だ。もっぱら工事から賄賂を取るのだ。六等のごろつきは編集者だ。文章の剽窃は日常茶飯だ。七等のごろつきは映画監督だ。若い女性に手を出すのだ。八等のごろつきは俳優だ。裸の作品を作るのだ。九等のごろつきはチンピラだ。飲む、買う、賭ける、どれもやる

のだ。)

例 70 の囲いで表しているように、九種類の職業や階層をごろつきに譬えている。

## 5、結

以上のような考察を通じて、当世ざれ歌「順口溜」についてはおよそ下記のような幾つの特徴や傾向がまとめられよう。

- ①「順口溜」の比喩句に使われている比喩詞は「像」、「好比」、「是」、「不如」などの少数のものに集中している。
- ②「順口溜」の比喩句では前後の文脈などで比喩詞が省略されることがある。
- ③「順口溜」の比喩句では、被比喩体を「主語」、比喩詞を「述語」、比喩体を「目的語」にする構文は最も代表的な構文構造である。
- ④「順口溜」の比喩句では、「是」で構成するものが特に多い。
- ⑤「順口溜」比喩句の被比喩体は必ずしも名詞で構成するのではなく、行為・動作などを表す用言性の語句で構成する場合も少なくない。また、被比喩体は前後の文脈で省略することができる。
- ⑥「順口溜」の比喩句では明喩、暗喩、借喩、比較喩、引喩の五種類の比喩に集中している。
- ⑦「順口溜」の比喩句では被比喩体の人間を動物や植物や自然現象などに譬える場合が多い。

### 注

- 1) 中国 2008 年度統計公報、中華人民共和国国家統計局による。  
<http://www.stats.gov.cn/>。
- 2) 深圳市 2008 年度政府工作報告、広州省人民政府網による。  
<http://www.gd.gov.cn/>。
- 3) 中央紀律検査委員会が 2007 年 10 月 26 日に第 17 回党大会で報告した報告書による。  
人民網 <http://www.people.com.cn/>。
- 4) 人民網 <http://www.people.com.cn/> による。
- 5) 中国国家図書館の検索ネットで「比喩」で検索したところ、比喩に関わる著書は 100 冊以上にも上るが、「順口溜」に関する比喩は一点もなかった。北京大学の図書館も同じ状況であった。
- 6) 呉礼権《現代漢語修辭学》、復旦大学出版社、2006 年の P64 - 81 では 18 種類に整理している。盛若菁《比喩語義》、西南交通大学、2006 年の P112 では、比喩についての各種の著書や論文の分類基準は 8 種類にもあると批判している。

### 主要な参考文献

- 1、陳望道《修辭学發凡》、上海教育出版社、1976 年。
- 2、袁暉《比喩》、安徽人民出版社、1982 年。
- 3、李濟中《比喩論析》、河北大学出版社、1995 年。
- 4、刑福義・汪国勝《現代漢語語法修辭》、高等教育出版社、2002 年。
- 5、王希杰《漢語修辭学》・商務印書館、2004 年。
- 6、除広州・張曉《反複現象論》、吉林大学出版社、2004 年
- 7、呉礼権《現代漢語修辭学》、復旦大学出版社、2006 年。
- 8、盛若菁《比喩語義》、西南交通大学、2006 年。

- 9、除鵬《修辞与語用》、上海外語教育出版社、2007年。
- 10、宗廷虎《20世紀中国修辞学》、中国人民大学出版社、2008年。

(本学産業社会学部教授)